

少年

第446号(1) 令和5年5月(皐月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 北原宏明

やってみせ 言って聞かせて 聞いてみて

「山心かむ ほどに日鮮やか 夏来る」 山梨県出身の俳人、飯田蛇笏の句である。「山深く分け入るほどに日の光に照らされて若葉の緑色が輝いて鮮やかになり、立夏を迎えたのだと感じる」という意味である。この句の季節感がまさにぴったりな季節が今年もやってきた。

5月6日は二十四節気のひとつ「立夏」である。立夏とは、夏が立つと書くように夏の気配が感じられ、陽気も増してくる時期である。暦の上では、緑が茂り、田植えや種まきなど畑仕事が始まる頃を言う。3月には幹の色だけで殺風景だった木々が、4月になると花の色となり、そして5月には新緑へと色彩を変える。新年度を迎え、木々の色彩と同様に皆さんの学校や職場における立場が前年度と変わった方もいるであろう。後輩（部下）ができ、先輩（上司）の立場になった方は後輩に対してどのようなかわり方をしているだろうか？「真の先輩」として後輩にかかわっているだろうか？



やってみせ 言って聞かせて 聞いてみて 褒めてやらねば 人は動かじ

話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば 人は育たず

やっている姿を感謝で 見守って 信頼せねば 人は実らず

これは、山本五十六^{いそろく}（軍人）のことばである。上記のことばの「人」を「後輩」に置き換えれば、理想の先輩像として捉えることができる。整理してみると下の通りである。

- ・ただ「やってみろ」というのではなくお手本を見せる。
- ・的確な指示を出し、何のためにやるのかを明確に説明する。
- ・言いたいことを言うだけでなく、話を聞いてあげる。
- ・信頼して見守り、仕事を任せる。
- ・頑張りに感謝し、褒めてあげる。

先輩になった途端、後輩に的確な指示も出さず、お手本も示さずにやらせっぱなしにしてないだろうか？指示も出さずにやらせておいて失敗したら怒鳴り、うまくできても褒めることもせず、ねぎらいのことばのひとつもかけないままにしてはないだろうか？組織の中で最初は誰もが後輩であり、いきなり先輩にはなれない。よって、後輩の立場は誰もが経験しており、その際に先輩にやられていやだったことは覚えているはずだ。先輩になったからといってそれを同じように後輩にやるのは、「名ばかりの先輩」ではないだろうか。「真の先輩」とはどんな存在なのだろうか？山本五十六のことばを参考にしながら自分なりにもう一度考えてみよう。

リアルを大切に

5月は多くの学校で修学旅行や宿泊学習が実施される時期である。その活動を通して児童・生徒は、教室では体験することのできない「リアル」を体験することができる。まさに「百聞は一見にしかず」である。今年度は新型コロナウイルスに対する規制も大幅に緩和され、コロナ禍前とほぼ同様に「リアル」を体験できているようであるが、感染が拡大していた時は訪れるはずだった現地をリモートでつないで「擬似的」に旅行を体験した学校もあったようである。



コロナ禍は人々の行動を大きく制限し、人間の精神や社会経済活動に悪影響をもたらした。ただ、こういった状況が皮肉にも社会におけるICTの発展や普及を加速させる結果となった。自分の「脳」を使って物事を考えたり予想しなくてもAI（人工知能）が答えを出してくれたり、「身体」を移動させなくても会議に参加できたり、あたかも旅行している気分を味わえたりすることがたやすくできるようになった。科学技術の発達には世の中を便利にしているが、養老孟司さん（医学博士）は自著（AI支配でヒトは死ぬ。〈ビジネス社〉）の中で「システム化の進んだ現代社会では、『脳』ばかりを肥大化させようとしてきました。するとどうなるか？ヒトとしての調子が狂ってきます。それは『脳』にとっては都合のいい世界でも『身体』にとっては息苦しい世界になります。ジレンマを抱えたヒトは最悪の場合、自らモノを考え、動くことを放棄して、死んだも同然の状況になってしまいます。」と述べている。新型コロナウイルスの規制が緩和された今、感染症対策をしつつ、コンピュータやスマホの画面上では体験できない「リアル」を体験しよう。死んだも同然の状況になる前に。

「非行少年を生まない社会づくり」の推進

刑法犯少年の検挙人員は、減少傾向にあるものの、依然として少年による、社会の注目を集めるような凶悪事件は後を絶ちません。本県の傾向として特に気になる点は、刑法犯少年の再犯者率と共犯率の高さです。非行少年の背景には、「少年自身の規範意識の低下やコミュニケーション能力の不足」「家庭や地域社会の教育機能の低下」「少年が自分の居場所を見出せず、孤立し疎外感を抱いている現状」等が見られ、こうした問題の解決に関しては、社会全体で取り組むことが必要です。

次代を担う少年の健全育成を図るため、次の2本柱を中心に「非行少年を生まない社会づくり」を推進しています。

① 少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動

警察が悩みや問題などを抱えている少年や保護者に対して、積極的に連絡を取り、必要に応じて支援を申し出ます。支援を求める少年については、教育委員会、学校、就労支援機関等の関係機関やボランティア等とも連携し、

◇ 定期的な連絡・相談、家族への助言 ◇ 就学・就労に向けた支援

◇ 少年が参加する社会奉仕体験活動・生産体験活動等の機会の供与

などを行い、立ち直りを支援します。

具体的な活動として、山梨県教育委員会生涯学習課が行っている事業を紹介します。

スマイルサポートプロジェクト (通称:スマサポ) ～少年サポートネット推進事業～

【問題を抱えた少年の立ち直り支援】

・問題行動 ・SNS、ゲーム依存 ・犯罪被害 ・家庭内暴力 ・不登校 etc.



スマサポ支援の4本柱



◎第1 体験活動

農業体験、物作り体験、料理実習、軽スポーツなど様々な体験活動

◎第2 学習支援

支援コーディネーターによる個別指導、学生ボランティア等と連携した学習支援

◎第3 就学支援

面接の練習、職業体験、相談機関とも連携した就学支援

◎第4 家庭支援

生活習慣の改善、子供・保護者への相談、面接等、良好な家庭環境構築のための家庭支援



困っていない?
支援を必要と
していない?

【お問合せ】少年サポートネット推進事業《事務局》

山梨県教育委員会 生涯学習課 青少年保護育成担当 TEL 055-223-1357

② 少年を見守る社会気運の醸成

社会全体として、少年の特性や非行に走る要因・背景等について理解を深め、少年が孤立し非行に走ることはないよう、地域全体で厳しくも温かい目で少年を見守る気運を醸成するため、

◇ ボランティア等の協力を得た通学時等の声掛け・あいさつ運動

◇ 低年齢の少年及び保護者に対する非行防止並びに規範意識向上教室

◇ 万引きや自転車盗等を防止するための官民連携した対策

などを行い、地域社会の絆をより強化します。